

令和2年8月27日（木曜日）



【7月豪雨】足立敏之議員が被災地視察／ダムが効果を発揮

自由民主党の足立敏之参議院議員は11日に、7月の梅雨前線による豪雨で大きな被害が出た大分県など九州地方の被災現場を視察した。洪水調節により大きな効果を発揮した大分県日田市市街地の上流にある筑後川水系松原ダムと下釜ダムの視察が主な目的。7月6日から8日の豪雨では、ダム上流域で628mmの累加雨量を観測したが、異常洪水時防災操作を行って両ダムに福岡ドーム約15杯分の洪水を貯留し、下流の洪水被害を軽減した。国土交通省では、両ダムが整備されていなければ、ダム下流の小淵地点で水位が約1・18m上昇して計画高水位を超過していたと推定している。



下釜ダムで説明を受ける足立議員（右から2人目）

日田市の原田啓介市長はダムの水位低下効果により、かろうじて大きな被害が生じることなく乗り切ることができたと話し、足立議員も「2つのダムが大きな洪水調節機能を発揮して下流が守られた。やはりダムは効果があるという一つの証し」と評価した。

足立議員は他にも、下釜ダム貯水池左岸側の大規模土砂崩れ現場や直轄権限代行で行われている福岡県の筑後川支川・赤谷川の復旧・復興現場、松原ダム上流側で被災した熊本県の杖立温泉を視察し「新型コロナウイルスの影響でダメージを受けている温泉街をどう再生していくのかが大きな課題だ」としている。